

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告兼 12 月期オランダ出張報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。
本年も大変お世話になりました。
様々なことが起きた平成28年ですが、皆様はいかがだったでしょうか？

我が球根切花業界は、一般花業界に比べ需給調整速度が遅いため、時流に乗り遅れ気味…。
他の切花・鉢物業界がとっくに実行していることを、我が業界が実行できた時、あたかも新しいことのように目立ちますが、実はやはりやや遅れ気味…（悔しいけど現実…）。

個人的には、地元の友人達から6~7年遅れで「SNSデビュー」。ほとんどの輸出業者や一部のお客様からは「社長…。止めた方が良いですよ！」とアドバイスされています…。
始めたばかりなので感想もコメントもできる状況ではありませんが、聞いていた通りのところもあれば、あれ~?ってところもあります。
頑張りすぎないように続けたいと思います。

毎年毎年反省ばかりしているのに、十分反省が足りていないようで、今年も反省の多い年となりました。
私自身会社とともに時流に合わせて変化し続けなければ…といつも考えております。
少しでも良い手応えのあった年となったのかもしれない。

来年が良い年となりますように！
引き続きよろしく願いいたします。

15年産オランダ産/フランス産

球根事故もそれなりにあった年でしたが、例年比較でそれほどひどい年だったようには思いません。
日本側（使用側・消費者側）も異常気象に晒された年となったのではないのでしょうか？

暑さを乗り越えてからの作型におけるパフォーマンスの良さに、むしろ驚いています。
遅ればせながら、9月に「今年のオランダ産球根品質は実は悪くない！」と初期の分析を良い方向に変える、はっきりと変えることになったくらい珍しい年だったのかなと思います。

0.H/0.T系輸入球数減少…。5~6月期の価格低迷はなぜ起きたのでしょうか？7月中旬以降からその状況が見え始め、10月中旬以降そのことが顕著に確認できるようになったようです（途中気象要因から乱れはありましたが…）。

A.H/L.A系輸入球数増加。5~6月期価格低迷。7月（新盆）8月（旧盆）9月（お彼岸）、0.H/0.T系同様盛り上がり欠けました。暮れは…お願いします。
それ以外の期間はどうだったのでしょうか？

12年産球根導入までその生産量を復活させた埼玉県深谷地区。（雪害の為2年間数量減少していた。）
うまくいきましたか？

若干量の廃棄・値引き販売をせざるを得ない情勢でしたが、今日現在は、A.H/L.A系で在庫数約15,000球程度となりました。

0.H/0.T系取扱数は減少してしまいましたが、切花農家の皆様が儲かってくれたなら…良いでしょう！

16年産南半球産

順調に生育中です。

N.Z産は、きれいに休眠が破れていたようですね。前半戦は調子よさそう！さて後半戦はどうなる？

一部に腐敗事故・ボリューム不足が確認されておりますが、最近では最も球根品質の安定している良い年となっているように見えます。

各産地の球根がそれぞれの球根産地の特徴をクリアに発揮しています。

見ていて気持ちの良い切花温室が多いですね。良かったです。

C.H産は一部産地が苦戦？（前半戦は…。後半作型では回復を期待する。）

当社の場合、O.H/O.T系にてN.Z:C.Hの比率は、85:15となっております。

全国平均と比べると、ややN.Z産率が高い（さほど差は無くなってきている。）。

今期前半戦はやや苦戦気味ですが、毎年そうとは限りません。17年産はどうなるのでしょうか？N.Z産だけでは品種数が足りないと思います。（VLZV、Vletter系は、着荷検品時心配したがまずまず良い？）

17年産南半球産

C.H産最大消費国の中国において南半球産はやや過剰気味。前半戦作型においてN.Z産との品質格差が相当出てきそうな雰囲気。（一般系品種）

今日現在の輸出業社の見解は、全体的な過剰感はあるものの国別、産地別、品種別の需要に相当偏りが出そうな雰囲気が漂っています。

このため取引開始は、各消費国側のそれぞれの見解が出そろってから、取引を始めた方がむしろ得策という風に考え方を修正してきているみたいです。

16年産オランダ産/フランス産の掘り取り後の修正作業が概ね終了する2月以降スタートとなるのかな～。

それより早く始めたい人は少し焦りすぎ…。取引を急ぐと、前年対比を意識すぎるから…。輸出業社も…。輸入業社も…。

切花産地側の腹はだいぶ固まってきているみたい。慌てずに、実需に忠実に作業を進めてもよい年となるのではないのでしょうか？

いつでも始められる準備はしておいた方が良いでしょう。

16年産は取り扱いを減らしたのに在庫がでちゃった…。

16年産オランダ産/フランス産

A.H/L.A系掘り取り後の修正作業は概ね終了。残す大物はシピオーネ…。

特定の切花作型用、花色に大きな欠品が出た為、全体に悪影響が出るのではと心配しましたが、何とか落ち着きました。

切花産地側の皆様からは落ち着いた対応をしていただき、大変助かりました。

14年産/15年産比で、7%近くも全国の球根輸入量は増加していたはず…。

16年産は、多少減ってもよいのかもしれませんが。今年は物日だけ出荷する人がちょっと多すぎたかな？

O.H/O.T系掘り取り後の結果報告は、これから本番を迎えます。

昨年は記録にないほどの入れ替え作業が発生しましたが、どうやら今年もそれに近い作業量となる様です。

東オランダ、南オランダ、北オランダ、フランス、生産地域を問いません。

球根産地により、生産畑により、結果が全く違っているようです。したがって、輸出業者毎に欠品の傾向がまるで違って来るようです。

各輸出業者は、「ちょっと経験がない状況」との事でした。

どこの地域のとか、どの系統が…とかが言えない以上、何がどのくらい欠品するのかわかりにくい状況となっております。A.H/L.A欠品時の案内から既にそうであった様に、欠品理由が品種・品目・サイズ別に違う様で

す。(20日の19時から、地元の切花産地と対策会議を持ちました。同日23時半には、再び逆の情報が入ってきています。フランス産でよいニュースも入るんです！)

随時ご案内いたしますので、対応の程よろしく願いいたします。

12月4日～10日の間での調査では、11月が地温・気温ともしっかりと下がり、芽形成・低温積算には良い影響を与えたようです。

球根は良く締まり、固く充実していて、見た目以上にずっしりと重さを感じました。

充実の遅れから掘り取り作業・選別・輸出加工作業ともに、例年比4～6日ほど遅れていることは、クリスマス休暇を控えてさらなる作業遅れによる品質劣化が心配されますが、それは私個人的な想像です。出張期間中に見た球根は、良い球根に見えました。

芽は太く、そして長い(球根の先端に届きそうなくらい)。イメージ的に言うと、フランス産芽形成・新潟県産芽形成に似ています。そして、自然界での低温積算がきちんと出来ています。

少なくとも2～7月使用分球根品質としては、申し分ない状態に見えました。

遅い作型用にはどうなるのか？フランス産の品質傾向は？

日本に球根がついてから分析したいと思います。

明らかに下根の量が少ないです。農薬使用規制の為なのか、はたまた今年の気象要因なのか、O.H系を中心に(O.T系はやはり強い)例年の下根の量より平均的に少なく、短い様に感じました。

これが切花生産品質に悪影響を及ぼさなければ良いが…と感じています。

出張報告

今回の出張には、途中参加の輸入会社職員を含めて25歳1名、29歳2名、35歳2名と、ずいぶん若い世代との研修旅行となりました。(昨年も若かった。7人…。)

振り返ってみると、当社が企画する研修旅行だけではなく、我が球根業界・球根切花業界においては、昭和元年～昭和46年くらいに生まれた人は1回または1回以上、オランダやその他海外視察を行っている人が大勢いるように感じます。いわゆる団塊世代2世といわれる世代の方々(昭和46年以降生まれ?)、20代の頃には1度や2度オランダ研修をすませているかと思いますが、自分たちが経営中心世代となって見極められる実力をつけてきた昨今(なんとなくリーマンショック以降…)、めっきりオランダ研修をされる方が減ってしまったように感じています。

80年代の前半～後半にかけて先輩たちが、30代後半～40代後半のころ、オランダ産球根(新品種)が原母球として紹介され、その後切花用球根として輸入され始めました。

貪欲に「現地の球根産業を知ろう」「現地の栽培技術を学ぼう」と盛んにオランダ研修に参加していたと思います。球根輸入業社は、彼らの目にさらされ、鍛えられました。

考えてみたら、この10年間現地で会うアジア人は、その殆どが他国の人がばかり…。

百聞は一見に如かず、です。

20年以上前の感覚のままに、日本が諸外国産の球根を使っても…なかなか発展性は…。

日本の球根業社は、日本の切花農家や球根農家の目線とともに、世界の球根生産地を見ることによってさらに鍛えられていく部分が多すぎると思います。(普段雨風に晒されていないだけに…その農家目線が大事だと思いませんか?)

私にもっと伝える能力があればよいのですが…。

それでも…やっぱり「百聞は一見に如かず」かな～。

今回は、昨年よりもさらに将来の球根確保精度を良くする為に、

育種会社	4軒	→	大変そうでした…。ライセンスが売れない。
輸出会社	9軒	→	方向性が分散してきた。中国の新幹線が売れる時代に新興国よりレベルの高い日本の品質要求レベルに応える努力は…。頑張ってもらいたい。
ワーナー型球根生産会社	13軒	→	Plamv対策はすごく進化している。復活のOA社を一番高く評価してくれた若い日本の切花農家には感謝！手作業の多さがポイント！球根農家の原点に戻る！
切花生産会社	3軒	→	方向性が明確。
球根洗浄会社	1軒	→	すごい一言。投資するポイントが素晴らしい。うれしい。
輸出加工作業受託会社 兼鉢物生産会社	2軒	→	職人気質が勝つのはうれしい。
切花市場	1軒	→	変わるなあ～！！

※一部重複アドレスです。

実質5日半でも、輸出会社の協力を得れば、相当の情報量が確保できますよ。
それでもアムステルダムナイトツアーは出来たし…。
アルゼンチンステーキ食べたし…。

*オランダの花市場は、いまや日本の真似…。(言い過ぎかな?)
2年後にはセリ台が無くなる方向に向かう準備を始めているそうです。セリ前取引が増えることの意味は？
ヨーロッパの花の流通が変わろうとしている時、身近でそれを見ている20代～40代のオランダの(世界の)
球根農家は、そしてその親世代はいったいどういう経営を目指すと思いますか？
どんなふうに各国球根消費市場を見ると思いますか？

この5～6年間で、9軒の輸出業社の考え方やら方向性も明らかに二極三極…多様化し始めています。

将来のための投資と思って、今の30代40代の日本の切花農家にはもう一度オランダを見てもらいたい。
できれば6月ではなく、9月ではなく、11月後半から12月中旬を見てほしい！冬のオランダこそ！

必ず、球根切花農家の経営ヒントが得られると思うから。

若い人たちの吸収力はすごいなあと思いました。
食欲では負けないつもりでしたが、エバートは250g、私は350g、後の方々は、サーロインやリブアイなのに450gをペロリでした…。

わかりにくい情勢報告でした。すみません。

来年も引き続きよろしく願いいたします。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

以上
森山 隆